



令和6年が始まりました。新たな夢や希望が湧いてきます。

旧年中は、多くの場面において、学校教育へのご理解とご協力を賜りましてありがとうございました。コロナ禍を経て、新たな学校教育の有り様を模索する一年ではありましたが、皆様から様々に温かなご支援をいただきましたことで、子ども達も教職員も安心してTryすることができました。改めて感謝申し上げます。

学校では、正門脇には、横浜の木：山茶花（サザンカ）の紅の花が常緑の葉に映えて美しく咲きほこり、給食室前の桜の枝には、新年を寿ぐ温かな陽を浴びて、桜の冬芽が例年よりも大きく膨らみ始めているように感じます。快晴の時には、スロープから遠く冠雪の富士山を望むことができ、新春の景色に感じ入ります。

松の内（元日～門松を立て正月飾りをつけておく期間）は明けていますが、今週は、様々に年末年始を過ごして登校してきた子どもたちと、年始の挨拶を交わした一週間でした。小机の子ども達は、変わらずに伸びやかで、短い会話の中にも新しい年への期待感、進級・進学への高揚感を感じる気持ちの良いスタートとなりました。

登校初日、9日（火）に行ったTV朝会では、今年の干支である「辰」の意味（これまでの努力や意識の芽が成長し、形になること）についての話をしました。子ども達は、画面越しになる朝会での話をよく聴いていて、朝会后に各教室を巡回すると近くに寄ってきては、親し気に朝会の話題について話しかけてきます。知的好奇心が強く、初めて知ることをとっても興味をもって聞き入れ、吸収していく子ども達です。

新しい年を迎え、どの子も新たな夢や目標を抱くと思います。それを為し得るには、夢や目標をもち続けることが何より大切です、そこに至るまでのロードマップとして、具体的な行動を思い描くことが大切だとも言われます。「思う」だけでなく、「何をしたら」目標や夢にたどり着けるのか、子ども達自らが考え、判断し、行動していけるようにしたいものだと改めて思います。

「卒琢（そったく）」という言葉があります。卵から雛が孵る時、雛が殻の中から外に出たいタイミングで殻をつつきます。この音を聞いて、親鳥は殻の外から殻をつつき、雛が孵ることを助けます。これは、卵の様子をよく見ていたり、殻をつつく音を聴いたりしている親鳥にしかできないことです。

転じますと、教育においても、子ども達の様子をよく見たり、声を聴いたりしながら、物事に丁度よいタイミングで声をかけたり、指導したり支援したりすることが、何よりもよい効果を生むと考えられます。加速度的に変化著しい時代を生きる子ども達に、自ら考え判断する力を育むためにも、教師と子ども達が「卒琢」する場面が多く見られるような学校生活でありたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、今年も子ども達が健全に育っていけるように、それぞれのお立場で子ども達を教育し、自己コントロールができる「よりよい社会人」になれるようにお導きいただきたく思います。

本年も、どうぞよろしく願いいたします。

横浜は、穏やかな冬日の元日でしたが、能登半島地域が大きく揺れ、津波や火災が起きました。児童につながる方々が被災されたかもしれないと思うと胸が痛みます。ここに心よりお見舞いを申し上げます。